

2015年度 前期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	生物環境化学科						
科目名	物理学 I						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年前期		
必修・選択の別	選択科目(バイオサイエンスコース)／選択科目(食品生物資源コース)／選択科目(エネルギー・環境コース)						
担当者	中野 吉正						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動方程式を理解し、一次元運動(等加速度運動・単振動)を解くことができる。</li> <li>・運動方程式から力学的エネルギー保存則を導くことができる。</li> <li>・極座標を用いて、天体の運動を解くことができる。</li> <li>・天体の運動から質量に関する情報を得ることができる。</li> <li>・波動の特徴を説明できる。</li> </ul>						
日程と内容	4/10 導入 4/17 ベクトルとその加減法 4/24 ベクトルの成分 5/ 1 スカラー積とベクトル積 5/ 8 直線上の運動 5/15 平面内の運動 5/22 力とそのつり合い・運動法則 5/29 等速円運動 6/ 5 単振動(実験)・運動エネルギーと仕事 6/12 万有引力と天体の質量 6/19 惑星の運動 6/26 振動と波動 7/ 3 波の反射 7/10 総合復習 7/17 定期試験 7/24 定期試験の講評						
成績評価基準	定期試験	60%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題	40%	計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	講義を通してその目標は到達できた。また、個々の学生の理解度は課題と定期試験によって検証できた。						
反省点	後半の「振動・波動」に関する部分は、実験を加えて説明をしたかったが、10分という短い時間では装置の運搬ができないので、あきらめざるをえなかった。						
来年度の計画	担当者交代により未定						
授業評価アンケートに対するコメント	アンケートの記述には、講義のレベルが易しすぎるとの回答と難しすぎるとの回答が混在していた。現状ではいかんともしがたいところである。						
履修登録者数	53名	定期試験受験者数	51名	合格者数	46名	合格率	90%